

平成31年度・令和元年度 嬉野市立塩田小学校 学校評価計画 【資料1】

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標 ※太字は昨年度との変更点
元気に がんばる 塩田っ子の育成	①思考力・表現力の向上(校内研究の推進) ②主体的で 対話的で深い学びを目指す授業改善 ③主体的学習習慣の確立(家庭学習・自主学習) ④心の教育の推進(挨拶、言葉遣い、いじめ防止) ⑤新学習指導要領の完全実施に向けたカリキュラム・マネジメント(道徳科・英語科・プログラミング教育等) ⑥特別支援教育の推進(理解の推進、支援体制の充実) ⑦体力の向上(運動機会の確保と生活習慣の形成) ⑧保護者や地域との協働による体験活動の推進 ⑨勤務時間とワークライフバランスを意識した効果的な働き方の推進

3 目標・評価

①思考力・表現力の向上とICT利活用教育の推進を図り、学力の向上を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・学習内容が理解できるように、アンケートで「授業の最後に振り返りを行っている」と答える児童が80%を目指す。	・1単位時間の終わりに、代表児童による振り返りを発表させる。 ・本時のまとめの後に、学習の振り返りをノートやワークシートに記述させる。	プロジェクト	山口幸
教育活動	●学力の向上	思考力・表現力の向上	・アンケートで、「自分の言葉で思いや考えを表現することができた」と答える児童が80%以上を目指す。 ・校内研究のアンケートで、「語彙指導を工夫したことで、思いや考えを表現する力が年度当初より高まった」と答える職員が80%を目指す。	・各担任で作成した語彙指導の年間計画に基づき、授業実践、日常生活での活用を継続的に行う。 ・校内研究計画に基づき、語彙指導に関する情報交換を行う。 ・西部型授業の流れを常に意識して実践し研究授業も西部型スタイルで行う。 ・国語タイムにおいて、月1回以上、語彙力向上のための問題プリントに取り組みさせる。	プロジェクト	橋本亜・田代
		主体的学習習慣の育成	・学年ごとの家庭学習時間(学年×10分+10分)を達成できる児童が80%以上をめざす。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーに取り組む家庭が80%以上をめざす。	・主体的学習習慣づくりのため、「家庭学習の手引き」の活用を進める。 ・児童が自ら家庭学習に取り組む意欲を高めるため、自学ノートコンクールを年2回以上開催する。 ・毎月1日前に、ノーテレビ・ノーゲームデーをお便りとマチコミメールで呼びかける。お便りには、達成率や家庭の取り組み状況を掲載し推進を図る。 ・「学期末のまとめテスト」に合格(100点)するまで取り組ませる。	プロジェクト	小手田

②挨拶・いじめの未然防止等の取り組みと特別支援教育の推進を通して、心の教育の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が85%以上をめざす。	・年1回以上、道徳の授業を公開する(9月の授業参観で、全学級「ふれあい道徳を実施する。) ・ふれあい道徳の前後に、担任の願いや保護者の感想を、お便りにして保護者や地域に知らせる。 ・道徳の資料やワークシートはファイルに保存し、生活や評価に生かす。	プロジェクト	白石
		豊かな人権意識の育成	・アンケートで「あいさつができています」と答える児童・保護者が共に85%以上をめざす。 ・アンケートで「友達にも思いやりの気持ちを持ち、なかよくしている」と答える児童・保護者が共に85%以上をめざす。	・「あいさつ」を年間を通した生活目標とする。 ・あいさつの仕方(声の大きさや態度など)について具体的に指導するとともに、日頃から地域の人への積極的なあいさつを呼びかける。 ・人権集会や平和集会の内容を充実させる。	プロジェクト	山有下森
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見	・アンケートで「学校が楽しい」と答える児童・保護者が共に95%をめざす。	・「心のアンケート」を毎月1回実施し、いじめの早期発見に努める。 ・児童理解のために、月1回の情報交換を行う。 ・教育週間(11月:45分×3日間)を実施し、児童の実態把握に努める。 ・年2回のQUテストを実施し、夏休みに職員研修を行う。	やさしくプロジェクト	川原
	○特別支援教育の推進	特別支援教育の支援体制の構築	・アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える職員が85%以上をめざす。	・特別支援学級や通常学級に在籍する支援を要する児童の情報交換を、年5回(4月、5月、学期末、11月、学年末)に行う。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。 ・児童の実態を把握し、保護者、SC、教育相談員、関係機関との連携を図る。		白仁田
学校運営	○教職員の資質向上	教職員としての言動に責任をもった児童理解と生徒指導力の向上	・アンケートで「児童理解と生徒指導力の向上に努めることができた」と答える職員が90%以上を目指す。	・月に1回児童理解のための情報交換会を行う。 ・年に2回の研修会を行う。 ・教育相談週間(11月:45分×3日間)を実施し、児童の実態把握に努める。 ・教職員として児童理解に立った言動に努める。	プロジェクト	安田

③運動機会の確保・奨励と体験活動の充実を通して、体力の向上と自主性の伸長を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	運動機会の確保と運動の奨励	・アンケートで「体育や運動が楽しい」と答える児童・保護者が共に90%以上をめざす。	・佐賀県版の「体育の学習」を活用し、指導方法を工夫して授業を行う。 ・スポーツチャレンジに積極的に取り組む。 ・水泳大会、マラソン大会、なわとび大会を計画的に実施し、記録に挑戦するよう働きかける。	プロジェクト	倉富
		望ましい生活習慣の形成	・アンケートで「『早寝・早起き・朝ごはん』が実践できている」と答える児童・保護者が共に80%以上をめざす。 ・アンケートで「手洗い・うがい・歯磨き」が出来ていると答える児童・保護者が共に90%以上をめざす。	・生活・学習がんばりカードで、8月と1月の年2回、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・ほけんだよりで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼び掛ける。 ・養護教諭と担任が連携し、手洗い・うがい・歯磨き等の生活習慣に関する保健指導を各学級で行う。 ・本校内に「目覚まし」や「お便り」などで呼びかける。	プロジェクト	山口恵
	○自主的活動の推進	自己有用感を育む体験活動の充実	・アンケートで、生活科・総合的な学習の時間や学校行事が「楽しい」と答える児童が80%以上をめざす。	・生活科や総合的な学習の時間において児童の興味・関心を生かした体験活動や表現活動を多く取り入れる。 ・各学年で、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を年間2回以上行う。	プロジェクト	吉富村永

④保護者や地域への学校教育活動の公開に努め、理解や協力を得る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○開かれた学校づくり	授業・行事等を公開し、保護者や地域と連携した学校運営	・学校・学級だよりなどで学校の様子をよく知らせ、授業参観や行事の参加率が85%以上をめざす。 ・地域と連携した取り組みについて、「協力した取り組みができています」と答える職員・保護者・学校運営協議会委員が共に85%以上をめざす。	・学校だよりやホームページを活用し、コミュニティ・スクールの取組(各学年が取り組んだ地域との連携活動等)について積極的に情報を発信する。 ・年間行事計画に加えて、授業参観や行事等について早め(1か月以上前)にメールや案内をすることで、保護者が参加しやすいようにする。また、委員を招待し、参加してもらう。 ・本校の取組の成果と課題について、第3回の協議会において学校運営協議員と職員(P会代表)が協議する機会を設定し、共通理解と問題解決を図る。	教務	教務
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の働き方に関する意識改革を行い、児童とむきあう時間を確保する。	・「子どもの向き合う時間が増えた」と答える職員を75%以上に上げる。 ・役割分担やプロジェクトの役割を効果的に活用し協働意識を高め、職務の効率化と指導の充実を図る。	・OJTや会議で情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。 ・前年踏襲だけでなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを考えながら、校務全体を見直す。 ・市内一斉定時退勤日(第3水曜日)は、18時00分全員退勤完了を目指す。また、第3を除き、毎週金曜日を校内定時退勤日として、ワークライフバランスの意識を高める。	教頭	教頭

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目